

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <青森県 菓子製造業 >
長引く新型コロナの影響により、売上・在庫は不変であったが、原材料の値上りにより収益が悪化。業界としては、夏場の売上を見越して増産に入っている店舗もあるが、不透明な状況である。
2. <秋田県 米飯・給食 >
スーパー（量販店）の売上は回復しているが、ホテル関係及び旅行会社・各種行事の特注弁当の需要がほぼ無い状況となっており、回復までにまだまだ時間を要する見込みである。
3. <埼玉県 麺類製造業 >
パスタ製品は、原料となる海外産デュラム小麦が高騰。そば製品は、中国産玄そばが高騰。大手製粉会社は、家庭用パスタ、そば製品について、9月1日から2.5%~6.0%程度値上げを発表した。
4. <三重県 漬物 >
原料用野菜は順調な入荷となっているが、生産者の高齢化と後継者不足で、一部で漬物原料野菜の供給不足が続いている。そのため代替原料による新商品開発の試みが行われている。
5. <島根県 水産練製品製造 >
主原料である魚肉すり身の価格が上昇し続けている。スケソウすり身は今年後半の漁獲がスタートしたが、漁模様は良くなく、価格の更なる上昇が見込まれている。
6. <沖縄県 パン製造業 >
緊急事態宣言の影響で、5月下旬より悪化した売上の改善は見られない。コンビニに加え、スーパー等への影響も広がってきており、大型SCに入っているリテールベーカリーの不振も続いている。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 ニット >
昨年より稼働は上がっているが、コロナ前の水準には程遠い状況である。前年同月は政府管掌の医療用ガウンの納品があったが今年は無いため、昨年より稼働が落ちている工場が多い。
8. <栃木県 縫製業 >
受注数は、去年より大幅に減少しているが、従業員の半数近くは雇用調整助成金等を活用して維持している。この先は、秋物商品の受注が出始めているので去年よりは期待している。
9. <富山県 絹人織織物製造業 >
化合織織物について、新型コロナウイルスの影響で売上が減退し、特にフォーマル用の生地販売が不振である。絹織物については、実需期で若干の荷動きはあったが、例年比売上は少ない。
10. <岐阜県 擦糸 >
新型コロナウイルス感染症は、繊維業界に影響が大きいように感じる。今後仕事を続けていく中で、世代交代や事業継続の話題が多い。今のところ先月とあまり変化はない。
11. <香川県 手袋 >
UV手袋の販売は外出自粛の影響で大変厳しい状況が続いており、追加注文がほぼ無い状態である。秋冬用の手袋も流通在庫が非常に多く、発注元の様子見もあり厳しい状態が続いている。
12. <福岡県 衣服・身の回り品 >
生産額の目安となる「証紙発行実績」の同月比によると対昨年7割増であるが、対一昨年5割減であることから、依然として厳しい状況であることに変わりはない。

木材・木製品製造業

13. <岩手県 一般製材業 >
国産材への代替需要が継続しており、特にスギ、カラマツ乾燥材の引合いが強く、乾燥施設のある製材工場ではフル操業の状況にある。
14. <福島県 外材輸入 >
北米材は最高値での契約が続いており、多少少なく入荷している。北欧材については価格高騰もあるが、現地からのオファーが激減している。この状況がいつまで続くのか不透明である。
15. <栃木県 家具・建具製造業 >
ウッドショックにより木材全般が品薄となっており、価格が高騰している。現段階では収集に見通しがつかず、長期化した場合が採算・収益に深刻な影響を及ぼす懸念がある。

16. <新潟県 製材業 >
先月に引き続き木材の入荷状況が非常に悪く、先行きが不透明である。仕事の話は多くあるので、何とか材料を間に合わせてスムーズな経営が出来ればと思う。
17. <香川県 木材 >
住宅メーカーは、資材価格の高騰の対処として住宅価格を上げ、ウッドショックを吸収しているようだ。輸入木材の高騰により、国産材への代替需要が伸びているが、楽観視はできない。
18. <鹿児島県 木材・木製品製造業 >
第1四半期を終えても木材の価格高騰が続いている。丸太原木高が先行し製材製品が追随する市況であるが、価格上昇のペースが早く混迷した市況の動向に、閉塞感さえ感じられる。

紙・紙加工品製造業

19. <東京都 紙加工品製造業 >
緊急事態宣言により国内需要が大きく変化し、紙加工業者の仕事が激減した。テレワークの普及により洋紙の消費量が減り、板紙も相次ぐイベントの中止や人々の外出自粛により激減した。
20. <福井県 和紙工業 >
主原材料の価格が高騰し、業績悪化に拍車を掛けている。雇用調整や操業時間短縮により賃金等の支出を抑えているが、そのため生産量が低下、在庫量も減少傾向にある。
21. <愛知県 段ボール >
段ボールメーカーの平日稼働日数は前年同日の22日であった。飲料関連は、昨年の反動増や夏場の先行生産により、前年比5%超の荷動きとなったが実需はよくなく、生産調整の可能性もある。
22. <三重県 古紙 >
6月期の古紙仕入量は：段ボール・約100±5%、新聞、チラシ・約100±15%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約100±8%の模様である。集団回収等を再開したところがあり、増加している。
23. <愛媛県 紙製品 >
DXやコロナ禍の影響により、紙の使用量が劇的に減少している。設備投資や徹底的にコストダウンを行っている会社がある一方、身売りしている会社とがあり、極端に企業間隔差が生じている。
24. <高知県 機械すき和紙製造業 >
本来、夏場は不需求期である家庭紙業界であるが、今年は、例年以上に荷動きが悪い。最高値のパルプ、その他、資材関係も値上げ傾向にある為、収益状況が悪化している。

印刷

25. <宮城県 印刷・同関連業印刷 >
新型コロナウイルスの影響が顕在化した昨年度と比較して状況は不変である。また、コロナの影響がなかった前々年度と比較をすると、厳しい状況が続いており、2極化している動きに変化はない。
26. <神奈川県 製本 >
例年閑散期の6月であるが、今年も仕事量は少ない。オリンピック特需も全くなく、夏に向けてより一層厳しくなることが予想される。組合活動は自粛中であるが、会合は行われている。
27. <大阪府 シール印刷業 >
コロナ対策の外出自粛等の影響でコンビニ、食品関係、工業系等の業況は上向きつつあるが、依然として化粧品・衣料関係は低調を推移している。
28. <岡山県 出版・印刷 >
緊急事態宣言が発令されイベントの中止や量販店・飲食店などの販促計画の減少など、厳しい状況が続いている。但し、売上高については昨年比で同程度である。
29. <高知県 印刷業 >
前年対比は久々に上回ったが一昨年対比はまだ及ばない。県内官公需、民需はプレミアム商品券等の特需もあり回復傾向だが、県外需要は第4波の影響をもろに受け最悪な状態である。
30. <佐賀県 印刷・同関連業 >
6月は前年比印刷需要が少し回復した。総会等もリアルで開催されるようになり資料等の印刷物が戻ってきた。商業印刷は変わらず不調だが、封筒等は、前年比では少し伸びた。

化学・ゴム

31. <長野県 プラスチック製品製造業 >
先月同様成形品の受注回復により、売上は昨年同期を上回る結果となった。取引先によっては生産が回復してきているが、成形材料の供給に不安要素があり、懸念される。
32. <岐阜県 プラスチック >
汎用化学薬品向け、自動車産業関連、物流資材、電子関連の売上げは好調であり、景況は好転している。一方で、外食関連は需要が戻らない。原油価格上昇により収益は低下している。

33. <愛知県 高圧ガス >
新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言、まん延防止等重点措置により飲食店向け炭酸ガスの出荷が不調となっているが、輸送機器向けは波はあるが順調な出荷状況が続いている。
34. <大阪府 石鹼洗剤製造業 >
コロナ禍が続く中、衛生関連品の市場拡大は継続しているが、品目別にみると、好調維持なものや昨年の反動で減少のものとまちまちである。
35. <奈良県 プラスチック >
新型コロナウイルスの影響による巣ごもり需要の落ち着きが現れてきたが、今なお原材料の不足や異常な高騰が続いており、在庫数量の減少に歯止めがかからない。
36. <島根県 プラスチック製品製造 >
自動車向け部品の流動が堅調であり、又、巣籠り需要向け部品も引き続き堅調な受注となっている。材料の入手性は好転情報はあるものの、具体的には好転しているとまでは言えない状況。

窯業・土石製品製造業

37. <山形県 コンクリート製品製造業 >
新型コロナの影響下、官公庁発注物件は堅調に推移しているが、民間需要が殆どなく全体的な製品需要は減少。河川災害復旧関連資材の受注はあるが、道路関連資材の需要が殆どない状況。
38. <長野県 セメント同製品製造業 >
6月は大口現場が重なり大幅な売上高UPとなった。組合員の会社は、河川工事をしているところは大雨で重機が水没するなどの被害が出てしまった。全組合員は仕事があり忙しいようだ。
39. <和歌山県 窯業・土石製品製造業 >
官需、民需共に前年比微減となった。新型コロナウイルスの影響は大きくないが、天候不良による出荷減が影響した。
40. <山口県 石工品製造業 >
お墓を建てる（移転を含む）区切りとして、お盆・お彼岸があるが、既にお盆までの仕事がいっぱいとなっている。梅雨入りが早く心配していたが、思った以上に天候に恵まれ仕事が捗っている。
41. <長崎県 生コンクリート製造業 >
昨年11月から、出荷数量が落ち込んでいる。1~6月までの半年間の累計前年比は81.2%となっており、2割減の厳しい状態が続いている。
42. <沖縄県 生コンクリート製造業 >
6月の出荷実績は、対前年比で32.8%減となった。公共工事は、対前年比22.5%減となり、主に防衛庁関連工事・学校関連工事が減少した。民間工事には、対前年比36.5%減となった。

鉄鋼・金属製造業

43. <青森県 鉄鋼製造業 >
工場平均稼働率と手持工事量は前月に引き続き横ばい。見積依頼物件数も大きな変化はないが、グレードにより各社バラツキが大きくなっている傾向。一部入手困難な鋼材が出てきている。
44. <福島県 鉄工業 >
6月後半から鋼材の価格上昇と確保困難が明確になった。契約後での価格転嫁も難しく、どれくらいの値上げで間に合うのか分からない状況。
45. <千葉県 機械部品製造 >
業種、業界によって景況感はバラバラだが、対面で行う業種は良くない。また、リスク（自然・コロナ感染・中国・米国・中東情勢等）の増大による不透明感により先行きが見通せない状況である。
46. <岐阜県 メッキ >
取引先の仕事量が減少していたが、ある程度戻ってきているため、景況は好転した。前年同月と比べると増加しているが、コロナ禍前までは戻りきっていない。
47. <鳥取県 鉄骨加工品製造業 >
世界的な鉄不足により、全ての品種で国際市況の上昇幅が大きく、需給がひっ迫し、スピードも早いため、国内価格が大幅な値上がりが続いている。
48. <大分県 鉄鋼業 >
前年度に比べ受注案件は増加傾向で、大型機械をはじめ、稼働率が上昇している。現況が続く見通しだが、材料価格の上昇や、材料在庫の品薄など懸念材料もあり注意が必要である。

一般機器製造業

49. <茨城県 生産用機械 >
対象7組合員（製造会社）の売上状況は、前年同月と比べて全社増加となった。全体増減率は前年同月比139%であった。前月に引き続き全社とも前年同月比を大幅に上回っている。

50. <東京都 食品機械製造業>
金属、樹脂材料、電気部品の仕入価格が高騰している他、センサーサーボモーターをはじめ半導体関連の調達が困難となり、今後生産活動に支障をきたす恐れが出てきた。
51. <石川県 機械工作钣金加工>
工作機械の6月売上高は前月比106.6、前年同月比196.6となっている。単月の売上高は2019年1月以降最高となっている。建機、インフラ関係が好調なことから工作機械の需要も増えている。
52. <長野県 一般機械器具製造>
一部の事業所は計画休業を継続する一方で、残業が続く事業所も出ており、業種によって回復度合いに大きな差が出ている。原材料等の値上りによる製品への価格転嫁が一部で進んでいる。
53. <奈良県 機械>
依然として厳しい状況が続き、自動車関連は半導体不足のため、大手メーカーが減産となり、関連中小企業は、引き合い・受注とも大幅に落ち込んでいる。
54. <山口県 一般産業用機械・装置>
中国と取引のある組合員は、追加工事の受注が競争入札となり依然として受注が中断している。大手自動車メーカー関連の組合員は、半導体の入手難が生産に影響し、作業が進まない状況。

電気機器製造業

55. <山梨県 電気機械器具製造業>
半導体製造関連の受注は継続しているが、医療・電気機器関連が、売上、収益ともに前年同月比10%減少している。医療機器は発注計画の見直しや開発計画の遅れが影響しているようだ。
56. <静岡県 電気機械器具製造業>
半導体不足に関して、足元では生産調整が具体化してきている。但し、納期繰上げ交渉並びに代替品検討も進んでおり、影響のミニマム化が求められている。
57. <愛知県 配電盤>
鋼材の価格上昇が止まらず、盤メーカーにとっては致命的で、製品の値上げが必然的ま状況にある。この関連で協同組合の独禁法適用除外が話題になっている。
58. <京都府 電機機械器具製造業>
半導体、自動車等一部業態に好況感が認められるが、金属並びに半導体等産業用素材価格が高騰しており、これらを価格に転嫁することが難しい状況のなか利益を圧迫している。
59. <福岡県 電気機械器具製造業>
コロナによる組合員の業況は、影響が出る企業も見受けられる。雇用調整助成金の申請を行う企業もある。自動車関連では、半導体不足による休業も余儀なくされている。
60. <佐賀県 電気機械器具製造業>
全業種とも原材料の高騰により利益が圧迫し、会社経営に大きな影響を与えている。値上げ申請を行い利益確保に努力している。

輸送用機器製造業

61. <群馬県 自動車・同附属品製造業>
世界的な半導体不足の影響により多くの自動車メーカーで生産調整が行われ、年内の回復は厳しいという声も聞かれる。売上はコロナ流行前水準に戻っていない。
62. <静岡県 輸送用機械器具製造業>
四輪車の半導体不足の影響で部品調達の見通しが立たず、生産稼働の停止が発生しており生産計画も刻々と変化が生じているため、先々の見通しが立てられず困っている。
63. <三重県 輸送用機器製造業>
コロナ禍や半導体不足による生産の減少、自動車のモデルチェンジの先送りによる試作品の需要減少や設備投資の鈍化により、量産部品・スポット部品・設備開発のいずれも厳しい状況にある。
64. <兵庫県 輸送用機器製造業>
売上高は前月比1.1%、前年同月比15.1%増加した。部門毎の対前月比では、船舶部門が22.9%増加したが、機械部門10.6%、精密機械部門7.6%、プラント環境部門39.4%と全て減少した。
65. <広島県 造船>
県内2500総トン以上の令和3年5月の船舶建造許可実績は1隻、30,000総トンであった（前月2隻10,300総トン、前年同月3隻191,800総トン）。なお、この1隻は国内船で、油槽船であった。
66. <愛媛県 造船>
造船業界全体として仕事量は減少したままで、厳しい状況が続いている。外国人労働者・技能実習生の新規および再入国は難しく、帰国を希望する外国人労働者も多く、減少が続いている。

その他の製造業

67. < 福 島 県 卸売業 >
6月は大きな変化は見られなかった。前期比、コロナの影響を受けやすい業種も売上額が増加する傾向にあったが、前年度の売上が悪かった反動に過ぎず、以前の状況に戻ったわけではない。
68. < 神 奈 川 県 工業中心の複合業種 >
工作機械受注額が増加傾向で、国内、海外向け共に前年比増。半導体関連の動きが活発化し上向き見込みが持てる。外出自粛による生活環境の変化から外食・観光等の落込が懸念される。
69. < 石 川 県 漆器製造業 >
首都圏などでの展示会は開催されるようになってきたが、売上につながるお客層や観光客の入込は増える要素が少ない。7月より、定期観光バスの運行、GOTOイート等の再開に期待したい。
70. < 長 野 県 漆器製造業 >
昨年の状況が継続しているため、資金繰り・雇用等の調整で不変を保っている。産地としては、雇用の減少や、資金繰り等から見て不変というよりは、実質的に悪化と判断した。
71. < 兵 庫 県 その他製造業 >
概ね前月と状況は同じであるが、月の後半から生産が動き出した感はある。靴業界は、4、5月は受注が少なく休業している企業もあったが、6月に入り生産を再開している企業も増えてきた。
72. < 香 川 県 漆器 >
昨年より売上は少し回復してきたが、コロナ禍前と比較すると40～50%減少している。無利子融資の返済も始まり、資金繰りは悪化している。

《非製造業》

卸売業

73. <北海道 各種商品 >
緊急事態宣言を受け大型商業施設の営業が縮小した結果、全般的に売上は大幅ダウンした。消費は生活必需品以外の買い控えが顕著となっており、収益も悪化している。
74. <茨城県 セメント卸 >
袋セメントの出荷袋数は前年同月比約10%の減少となった。工法の変化に伴う減少もあるが、建設工事そのものが少なくなっていることが要因と思われる。
75. <群馬県 再生資源卸売業 >
鉄屑は発生量が少なく高値寄りに推移した。古紙は流通量が継続的に減少しており、輸出向けの価格が上昇しているが、国内の価格に変動はない。
76. <山梨県 自動車中古部品卸売業 >
鉄、非鉄の相場が好調で、前年同月比、売上は130%、収益は120%増加した。一方、触媒の買取価格の相場がピークアウトにより約20%下落、廃車の発生量が減少し買取価格が高騰している。
77. <岐阜県 電設資材 >
官民物件の減少やコロナによる工期、納期の遅れが続いている。半導体不足により、一部メーカーのルームエアコンや火災報知器、インターホン、エコキュートなどの商材供給に支障が出ている。
78. <京都府 化学製品卸売業 >
コロナ禍の影響が続いており、加工量の減少で販売店の売上も上がらない状況で、注文量は小口化の傾向にある。また、染料・薬品中間物の入手も困難になっており値上げ傾向が続いている。

小売業

79. <岩手県 食肉小売業 >
小売店は、5月まで安定していた豚枝肉相場が全国で出荷頭数が減少した関係で大幅に高騰しており、豚肉消費の多い当県の食肉店は利益確保に苦慮している。
80. <栃木県 花・植木小売業 >
花の生産地から高冷地へと切替わりの時期を迎え、入荷は昨年比90~95%減、単価は110%~120%高で推移した。小売はスーパー等のカジュアルフラワーは良かったが、路面店の動きが鈍い。
81. <千葉県 小売業 >
前月に引続き状況は変わらず、非常に厳しい状況。売上ウエイトの高い食料品は、巣ごもり需要で前年はそれほど大きな影響を受けていなかったが、その反動か野菜、鮮魚、お米等が厳しい。
82. <山梨県 食肉小売業 >
前年同月比、売上は増加しているが、一昨年同月の売上には及ばない。新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛の傾向が継続し、ホテル・旅館や飲食店等の売上が伸び悩んでいる。
83. <徳島県 量小売業 >
資材の値上げがあり、在庫確保の動きはあったが、実質の前売りには繋がっていない。あくまで在庫を積み増しただけ。現場は木製品の不足から遅れがちであり、すぐには改善されない。
84. <熊本県 燃料小売業 >
今月のプロパンガスの原油価格は530ドル/tで先月495ドル/tより価格が上がっている。販売量は先月より9.6%減少し、売上高も先月より6.8%減となっており、販売量が減少傾向にある。

商店街

85. <宮城県 商店街 >
今年に入ってから6店舗もの店が閉店した。現在、閉店を検討中の店が2件あるとの情報が入っている。
86. <山形県 商店街 >
前年に比べやや回復傾向にあるように感じていたが6月に入り再び悪化、店舗側にもコロナ疲れが見える。秋以降に期待を寄せるが、夏を持ちこたえられない店も出てくるように思う。
87. <神奈川県 商店街 >
まん延防止等重点措置が解除、高齢者のワクチン接種が始まり、日中の来街者は増加傾向も、夜間営業は依然厳しい状況が続く。7月より組合員への支援として組合費を3年間20%減額する。
88. <新潟県 商店街 >
街に人出が全然戻っていない。店舗からも特に夜は人が歩いていないとの話をよく聞く。高齢者のワクチン接種はある程度進んでいることから、今後の回復に期待したい。

89. < 岡山県 商店街 >
緊急事態宣言が終わっても人通りが戻らない。家賃支払に困る店も少なくなく、少しずつ閉店をするところも出ている。
90. < 長崎県 商店街 >
前年同月売上は減少、収益・資金繰りは共に悪化。6月も前年比売上が減少した組合員が多いとの報告を受け、今年度も組合賦課金2か月分(7、8月)の全額免除を理事会で決定した。

サービス業

91. < 北海道 ホテル旅館 >
緊急事態宣言の解除を受け、休館していた2施設が営業を再開したが、6月の集客数はかなり厳しい。解除に併せて町独自の宿泊助成事業を再開するも依然状況は厳しい。
92. < 東京都 自動車整備業 >
令和2年4月から始まった自動車特定整備制度(電子制御装置整備が新たに追加)により、該当作業を行う場合は新たに認証を取得する必要があるため、設備投資する事業者が増えている。
93. < 神奈川県 医療業 >
昨年大幅に減少した健康診断が戻りつつある。特にガン健診の予約が好調。資金繰りは、2年目から元金支払いが始まる借入もあり、患者減少がこのままだと年度後半に苦しくなる法人がある。
94. < 大阪府 警備業 >
コロナ禍の影響により、各イベント等の雑踏警備業務が中止となる反面、高速道路集中工事の交通誘導警備業務受注があり、売上増加に転じている状況である。
95. < 愛媛県 造園 >
今年度の公共施設等の管理の仕事が出始めたが、予想通り減額傾向にある。同等の作業内容で金額の1割減や、草刈や消毒なら回数の1回減など様々であるが、緑地の荒廃化が心配である。
96. < 大分県 自動車整備業 >
車検実績は前年比約126.2%。2年前との比較は108.9%。前月に続き前年比を大幅に超える入庫となった。貨物車の入庫が引続き多く、予約で一杯の状況で残業も例年以上となった。

建設業

97. < 埼玉県 鉄骨工事業 >
いまだ鋼材や副資材の値上げが続いている。当業界は見積提出時期と着手時期が場合により半年、1年先のもあるので、このような状況下では物件によっては辞退せざるを得ない状況である。
98. < 岐阜県 鉄構造物 >
多少仕事量が上向いたと思われるが、前月同様に材料の高騰により、見積価格が決定出来ない事も発生している。納期対応もかなり悪く3ヵ月~4ヵ月材料納期がかかる物件も出始めている。
99. < 静岡県 総合工事業 >
鋼材、ボルト不足の影響で発注時期が早くなり、一時的に売上や操業度は昨年度並に戻りつつある。但し、販売価格の低迷や鋼材単価の急速・大幅な上昇により収益・資金繰りは悪化している。
100. < 山口県 左官工事業 >
半年以上にわたり工事量の少ない状態が続いているが、更に半年この状態が続くことが予想される。広島と同業者もだが、若者の退職が増えているように感じる。
101. < 徳島県 板金工事業 >
ウッドショックの影響による木材の異常な値上げに続き、銅板の急激な値上げなどコロナ禍の影響が少なかった住宅着工にも影響が出てきた。現状では見通しがつきにくい状況である。
102. < 宮崎県 管工事業 >
共同事業の資材調達において、上水道本管布設工事のダクタイル鉄管類の価格が、8月から10%以上の引上通知があり、実施された場合は、公共工事に少なからず影響が出る見込である。

運輸業

103. < 宮城県 倉庫 >
前月と比較すると、全体的に売上高(収入)は減少している。品目別では、在庫量が増加したのは金属製品・機械、雑工業品で、他の品目は入・在庫量ともに減少している。
104. < 群馬県 一般貨物自動車運送業 >
燃料価格の上昇が止まらず、厳しい状況が続く。野菜や肥料の荷動きが順調で、飲料水の回復も見られるが、全体的には低調で推移している。
105. < 神奈川県 道路貨物 >
海上コンテナ不足の影響で輸出入貨物が減っており、倉庫の入在庫量も減っている。巣ごもり需要により宅配貨物は増加しているが、全体としてコロナ前の8~9割程度の物流量が続けている。

106. < 滋賀県 貨物輸送 >
依然としてコロナの影響が続いており、輸出入も空コンテナ不足にて動きが止まっており低調。飲食関係
ボトル生産も低迷で減産。あらゆる企業に不安が起こっている。
107. < 広島県 道路貨物運送業 >
緊急事態宣言が解除され、関東、中部、関西方面からの返路貨物が減少しており、さらに運賃は値崩れし
ていて、中には安い運賃なので返路貨物は積まないで空車回送している業者もいる。
108. < 鹿児島県 運輸・倉庫業 >
6月は例年物量が減る中、下り荷物は少なく、運賃も下落している。コロナ禍で大人数での安全大会等が
開催できないため、少人数に分けて指導を行っている。燃料価格が収支を圧迫している。

その他の非製造業

109. < 宮城県 不動産業 >
例年通り、株主総会後の異動で、法人契約の賃貸マンションの引合いや退去が多い月となった。また、時
期的に新婚向けの賃貸物件の引合いも多かった。
110. < 新潟県 砂利採取業 >
6月度の骨材生産量は前年同月比103.4%であるが、1からの累計では前年比94.5%であり、昨年の業況ま
で回復していない。夏以降の公共工事や民間建築の生コン需要に期待したい。
111. < 富山県 不動産取引業 >
富山駅、新高岡駅周辺の開発が進んでいる一方、ワクチン接種が進まないため、商業地の需要減による店
舗や事業所の新設を見合わせる動きが見られる。
112. < 兵庫県 社会福祉・介護事業 >
組合員の施設においては、ワクチン接種（利用者・職員）も進み一応の安心材料も増えてきている。そう
いった状況の中、運営状況も慎重であり、景況は悪化（新規入所対応が困難）している。
113. < 岡山県 信用組合 >
緊急事態宣言が明け、飲食店を中心に業況は一部回復したが、資金繰りは厳しい状況にある。引き続き、
融資による資金繰り支援とともに、月次支援金や補助金等、本業支援も力を入れていく。
114. < 広島県 不動産業 >
6月は地価調査業務等により、一般鑑定業務がやや減った分、売上高が減少した。前年同月比では、特に変
化はなかった。依然としてコロナ禍の不動産鑑定業界への影響は少ない。